

様式 F-7-2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究代表者	部局	比較文化学部		
	職	准教授		
	氏名	渡邊 顕彦		

1. 研究種目名 基盤研究(C) (一般) 2. 課題番号 15K02385

3. 研究課題名 ラテン語詩と近世初期日本の交差

4. 補助事業期間 平成27年度～平成29年度

5. 研究実績の概要

2017年度は、1) 国際会議での報告1件、2) 国内における報告2件および発表なしの参加(司会)1件、3) フライブルクとミュンスターにおける研究調査、4) 関連資料の収集とデータ整備、が主な活動であった。

1) については、7月から8月にかけてアメリカ・ケンタッキーにて行われた国際学会で研究の成果を報告し、世界的な近世ラテン語文学の広がりについて外国人研究者達と意見交換を行った。2) については、5月に東京大学における多分野交流演習に参加してパネル発表を行い、7月に学習院女子大学における学会で研究テーマと関係する発表の司会を行い、また3月に東京にて行われたカトリック教育学会で報告を行い、研究成果の発信をすると共に国内研究者と意見交換をした。3) については、8月に近世ラテン語研究が盛んなドイツ・フライブルクとミュンスターの研究機関にて研究調査を行って2次文献の知識を深めると共にドイツの研究者と意見交換を行った。4) については、特に上記3) で得られた知見に基づいて、近世ラテン語研究書や関連資料を収集し、データ整備を行った。

さらに2015年度と2016年度に行った国際学会報告2件の原稿はいずれも査読を通過し出版予定であるが、外国編集陣の要請に従ってそれらの校正を引き続き行った。また研究テーマと関連がある西洋古典と受容の問題について紀要論文を1点発表した。

特に本年度、上に記した2016年にイタリア・ローマで行った学会報告論稿の整備・校正の過程で、パチカン所蔵手稿『講義要綱』内のラテン語寸詩4点が、16世紀末のリスボン刊行本に収録されているものであるとほぼ同定できたことが、3年の研究期間内に得た最大の成果であるといえる。

6. キーワード

近世ラテン語エピグラム イエズス会 東西交流史

7. 研究発表

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡邊 顕彦	4. 巻 10
2. 論文標題 日本と西洋古典についての覚書(1) 「受容」という視点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京大学西洋古典学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 73-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

2版

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Akihiko Watanabe
2. 発表標題 Per Tempora et Terras: Itinera Iaponum Facta et Latine Commemorata Saec. XVI et XVII
3. 学会等名 Conventus XIV Academiae Latinitati Fovendae (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊顕彦
2. 発表標題 異文化教材としてのギリシア・ローマ古典とイエズス会教育
3. 学会等名 カトリック教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊顕彦
2. 発表標題 日本を舞台としたラテン語叙事詩Paciecidosにおける演劇的・エンブレムの要素
3. 学会等名 東京大学多分野演習
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

8. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

9. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

10. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

11. 備考

-